

令和6年度 高知県・高知市 知事・市長及び教育長連携会議

高知県教育委員会

説明資料

- 学力向上の取組の成果と課題、今後の取組について（P1～）
- 不登校対策について（P17～）
- 保幼小連携・接続の取組について（P20～）



きらっと いざいざ あったかい
高知家の教育

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇ 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 実施日 教科に関する調査 令和6年4月18日(木)

児童生徒質問調査 令和6年4月10日(水)～4月30日(火)

(3) 調査内容

- ◇ 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- ◇ 教科に関する調査は、国語、算数・数学を出題

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

- ◇ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査を実施

(4) 県内(公立学校)の参加状況

- ◇ 参加学校数

小学校

市町村(学校組合)立小学校	義務教育学校	特別支援学校(小学部)	合計
173校	4校	3校	180校

中学校

市町村(学校組合)立中学校、 県立中学校	義務教育学校	特別支援学校(中学部)	合計
89校	4校	2校	95校

<参加校数>

・小中学校	262校
・義務教育学校	4校
・特別支援学校	3校
計	269校

※義務教育学校は、小・中学校の義務教育を9年間の一貫したカリキュラムで運営する学校であり、小・中ともに実施する学校が4校であるため、合計が4校となっている。

※特別支援学校は、1校の中に小学部や中学部があり、小学部・中学部ともに実施する学校が2校、小学部のみ実施する学校が1校であるため、合計が3校となっている。

- ◇ 小学校解答(回答)児童数

国語	4,553名
算数	4,552名
児童質問	4,806名

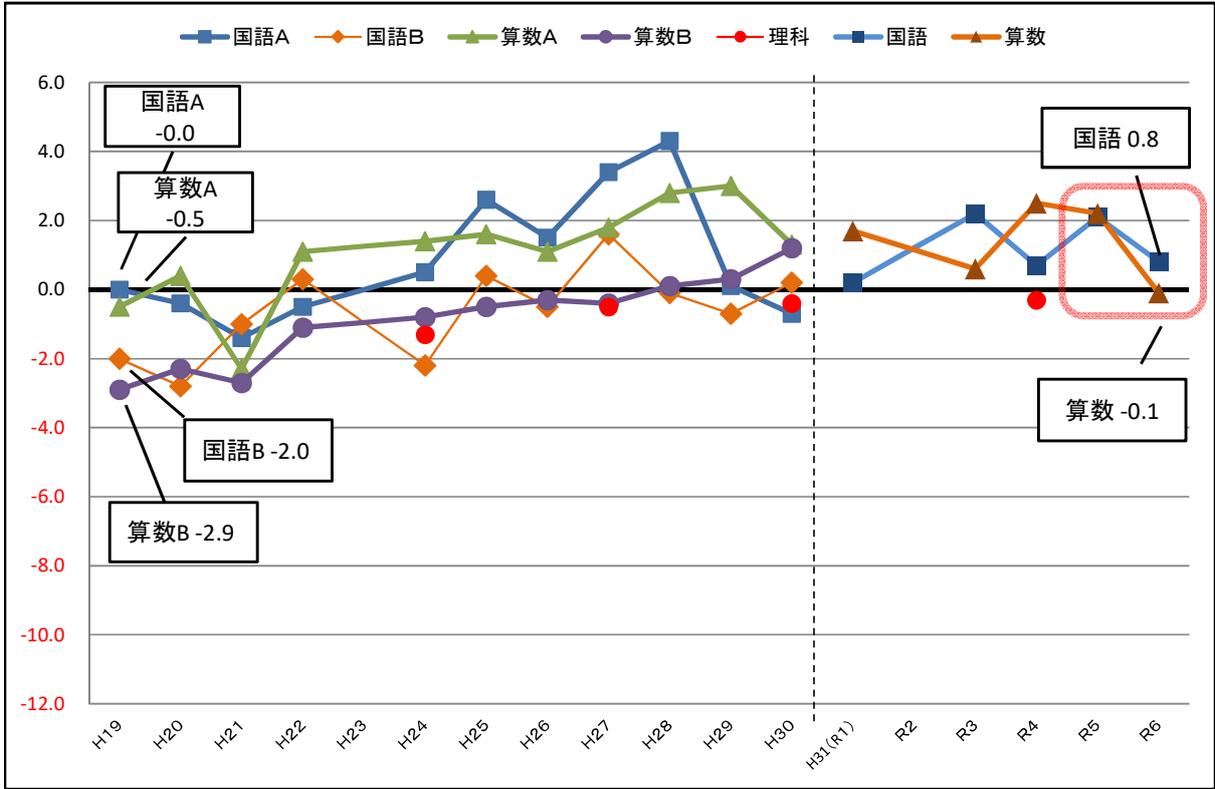
- ◇ 中学校解答(回答)生徒数

国語	3,582名
数学	3,581名
生徒質問	3,778名

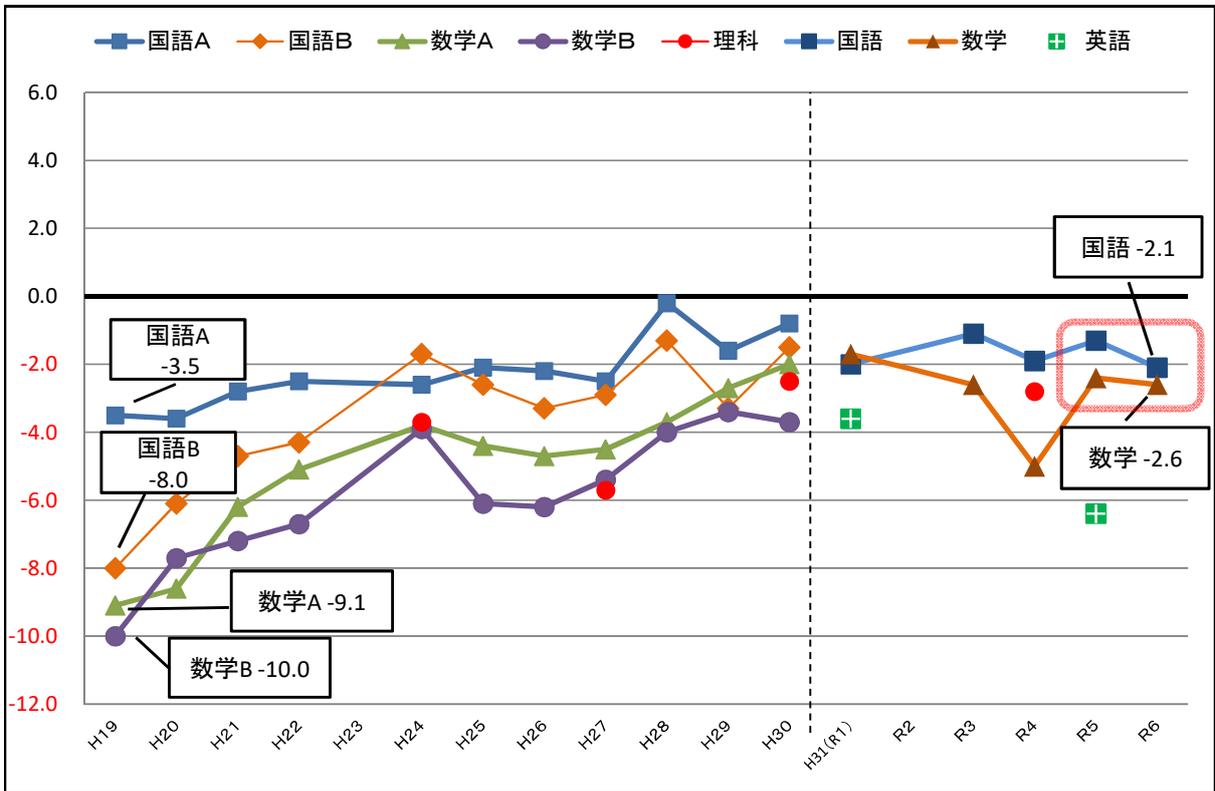
※宿毛市立の小中学校(小学校7校、中学校5校)は、4月17日に発生した豊後水道を震源とする地震の影響により臨時休校になったため、教科調査は後日実施となった。したがって、教科調査の全体集計に宿毛市立の小中学校の結果は含まれていない。

平成19年～令和6年度 全国平均正答率との差(高知県平均正答率)

小学校調査

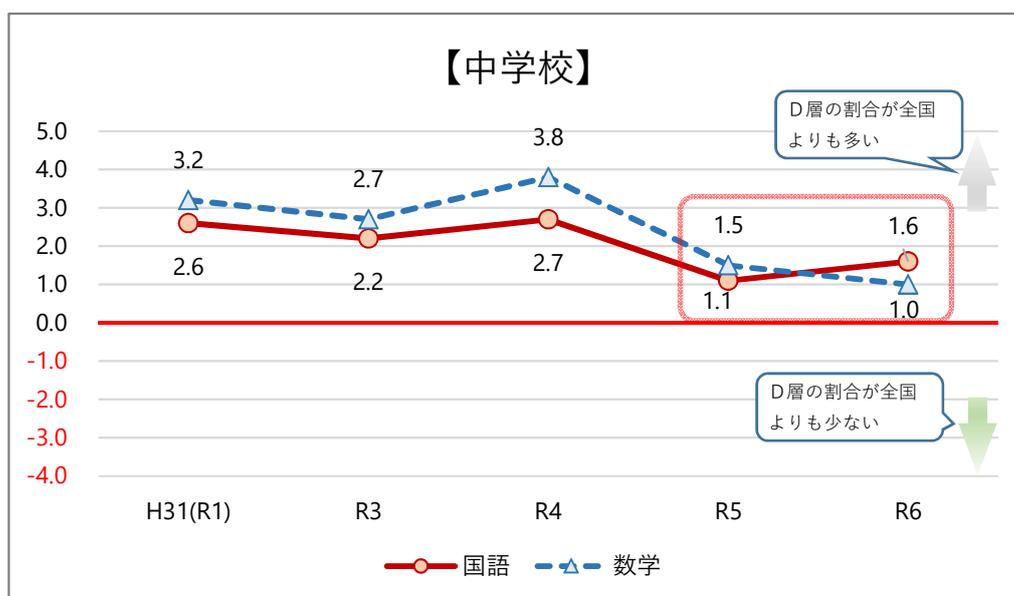
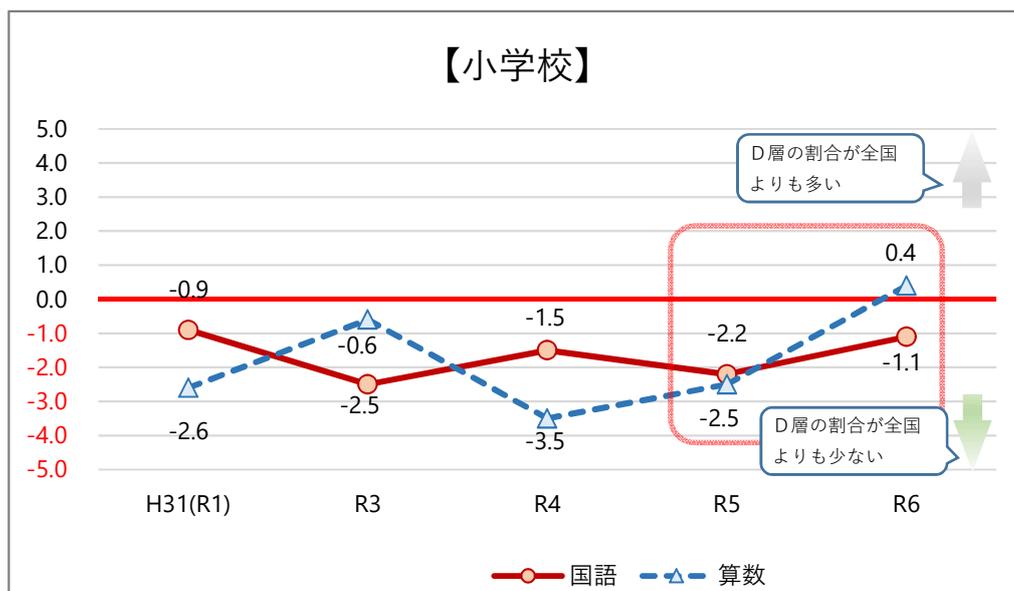


中学校調査



※縦軸は全国の平均正答率との差をポイントで示している。(平成23年度の全国の値はない。)
 ※平成31年度(令和元年度)よりABが統合。
 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止している。

D層の割合の全国との差（経年変化）



- D層の割合の全国との差を昨年度と比較すると、中学校数学は、昨年度よりも減少しているが、中学校数学以外の教科は増加している。

※文部科学省は、児童・生徒を正答数の大きい順に整理し、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っている。

上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、5番目をD層としている。それに高知県の児童生徒の状況を当てはめて、D層の割合を示している。

教科別平均正答率【小学校】

小学校(国語・算数)						
	国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	算数平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
令和6年度	68.5	67.7	0.8	63.3	63.4	-0.1
令和5年度	69.3	67.2	2.1	64.7	62.5	2.2
令和4年度	66.3	65.6	0.7	65.7	63.2	2.5
令和3年度	66.9	64.7	2.2	70.8	70.2	0.6
平成31(令和元)年度	64.0	63.8	0.2	68.3	66.6	1.7

		国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	算数平均正答率(%)		高知県と 全国の差
		高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
A	平成30年度	70.0	70.7	-0.7	64.8	63.5	1.3
	平成29年度	74.9	74.8	0.1	81.6	78.6	3.0
	平成28年度	77.2	72.9	4.3	80.4	77.6	2.8
	平成27年度	73.4	70.0	3.4	77.0	75.2	1.8
	平成26年度	74.4	72.9	1.5	79.2	78.1	1.1
	平成25年度	65.3	62.7	2.6	78.8	77.2	1.6
	平成24年度	82.1 (81.5~82.7)	81.6 (81.4~81.7)	0.5	74.7 (73.9~75.6)	73.3 (73.1~73.5)	1.4
B	平成30年度	54.9	54.7	0.2	52.7	51.5	1.2
	平成29年度	56.8	57.5	-0.7	46.2	45.9	0.3
	平成28年度	57.7	57.8	-0.1	47.3	47.2	0.1
	平成27年度	67.0	65.4	1.6	44.6	45.0	-0.4
	平成26年度	55.0	55.5	-0.5	57.9	58.2	-0.3
	平成25年度	49.8	49.4	0.4	57.9	58.4	-0.5
	平成24年度	53.4 (52.4~54.3)	55.6 (55.4~55.8)	-2.2	58.1 (57.1~59.1)	58.9 (58.7~59.1)	-0.8

小学校(理科)			
	理科平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)	
令和4年度	63.0	63.3	-0.3
平成30年度	59.9	60.3	-0.4
平成27年度	60.3	60.8	-0.5
平成24年度	59.6 (58.8~60.4)	60.9 (60.8~61.1)	-1.3

※平成24年度は抽出調査のため、平均正答率の推計値で示している。

()の数値は平均正答率の95%信頼区間を示している。

※平成31年度よりAB統合

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止している。

教科別平均正答率【中学校】

中学校(国語・数学)						
	国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	数学平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
令和6年度	56.0	58.1	-2.1	49.9	52.5	-2.6
令和5年度	68.5	69.8	-1.3	48.6	51.0	-2.4
令和4年度	67.1	69.0	-1.9	46.4	51.4	-5.0
令和3年度	63.5	64.6	-1.1	54.6	57.2	-2.6
平成31(令和元)年度	70.8	72.8	-2.0	58.1	59.8	-1.7

		国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	数学平均正答率(%)		高知県と 全国の差
		高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
A	平成30年度	75.3	76.1	-0.8	64.1	66.1	-2.0
	平成29年度	75.8	77.4	-1.6	61.9	64.6	-2.7
	平成28年度	75.4	75.6	-0.2	58.5	62.2	-3.7
	平成27年度	73.3	75.8	-2.5	59.9	64.4	-4.5
	平成26年度	77.2	79.4	-2.2	62.7	67.4	-4.7
	平成25年度	74.3	76.4	-2.1	59.3	63.7	-4.4
	平成24年度	72.5 (71.8~73.1)	75.1 (75.0~75.2)	-2.6	58.3 (57.4~59.2)	62.1 (62.0~62.3)	-3.8
B	平成30年度	59.7	61.2	-1.5	43.2	46.9	-3.7
	平成29年度	68.9	72.2	-3.3	44.7	48.1	-3.4
	平成28年度	65.2	66.5	-1.3	40.1	44.1	-4.0
	平成27年度	62.9	65.8	-2.9	36.2	41.6	-5.4
	平成26年度	47.7	51.0	-3.3	53.6	59.8	-6.2
	平成25年度	64.8	67.4	-2.6	35.4	41.5	-6.1
	平成24年度	61.6 (60.9~62.3)	63.3 (63.2~63.4)	-1.7	45.4 (44.3~46.6)	49.3 (49.2~49.5)	-3.9

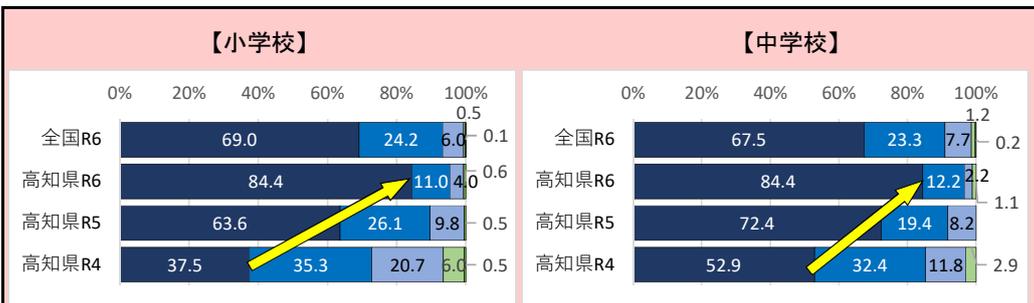
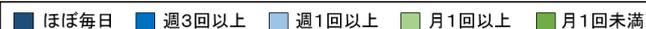
中学校(英語)			
	英語平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)	
令和5年度	39.2	45.6	-6.4
令和元年度	52.4	56.0	-3.6

中学校(理科)			
	理科平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)	
令和4年度	46.5	49.3	-2.8
平成30年度	63.6	66.1	-2.5
平成27年度	47.3	53.0	-5.7
平成24年度	47.3 (46.5~48.0)	51.0 (50.9~51.1)	-3.7

ICTを活用した学習状況

学校 質問調査	(56) (60)	調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか
------------	--------------	---

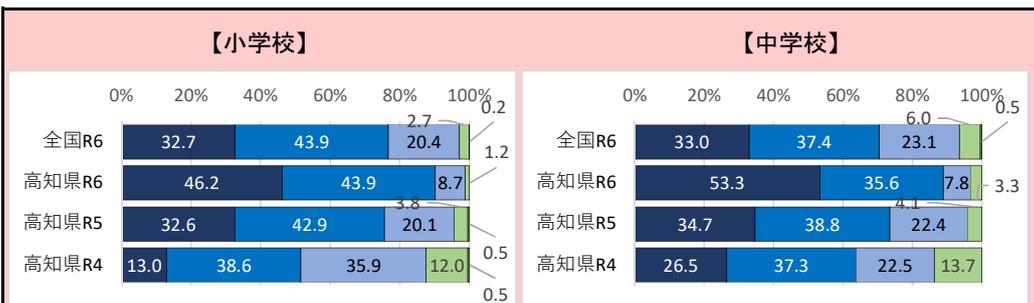
高知県 (経年)



「ほぼ毎日」と回答した学校の割合は、令和5年度と比べて、小学校では20.8ポイント、中学校では12.0ポイント増加している。

学校 質問調査	(57) (61)	調査対象学年の児童(生徒)が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか
------------	--------------	---

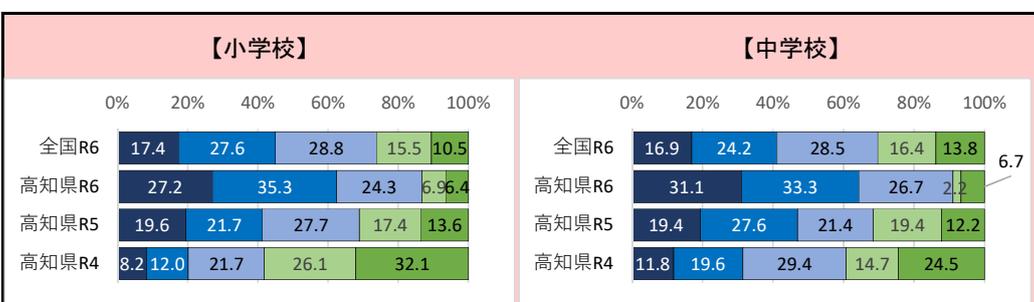
高知県 (経年)



「ほぼ毎日」と回答した学校の割合は、令和5年度と比べて、小学校では13.6ポイント、中学校では18.6ポイント増加している。

学校 質問調査	(60) (64)	調査対象学年の児童(生徒)同士がやりとりする場面では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか
------------	--------------	---

高知県 (経年)

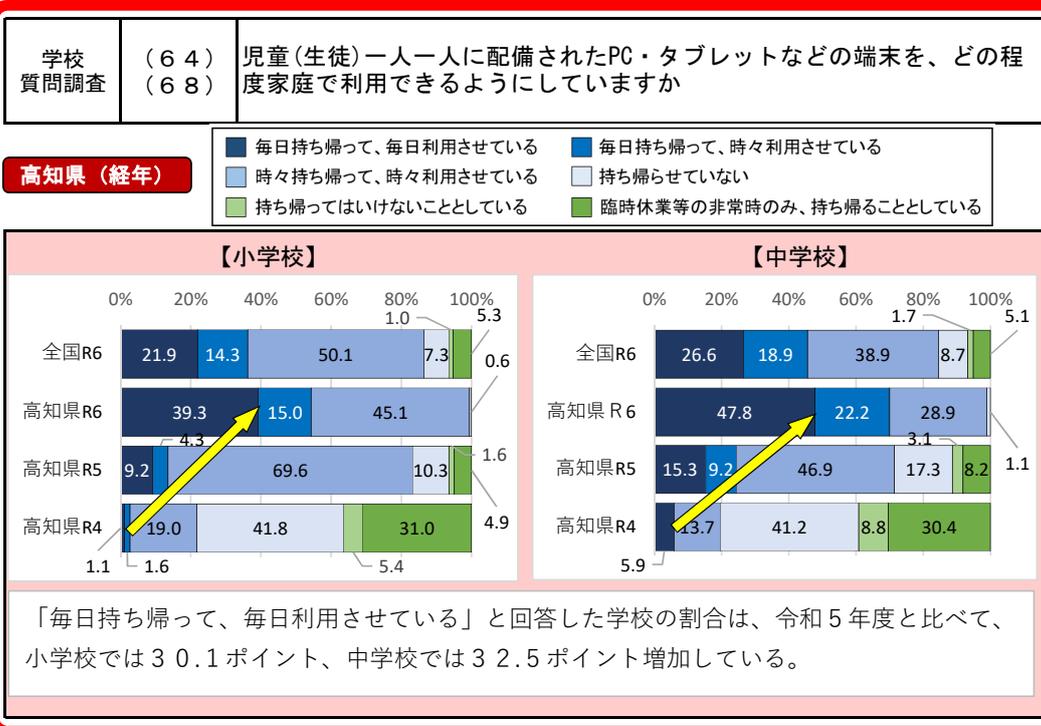
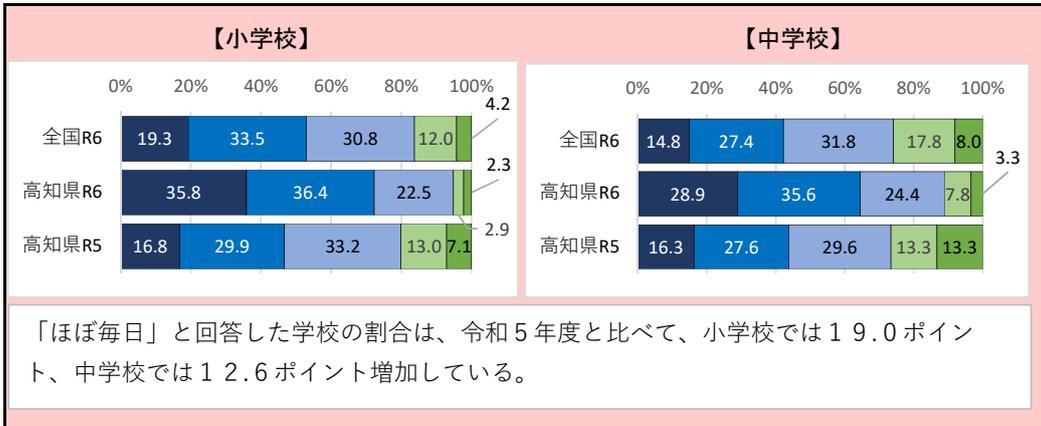
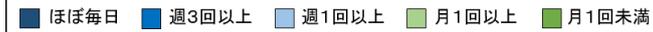


「ほぼ毎日」と回答した学校の割合は、令和5年度と比べて、小学校では7.6ポイント、中学校では11.7ポイント増加している。

ICTを活用した学習状況

学校 質問調査	(61) (65)	学調査対象学年の児童(生徒)が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか
------------	--------------	--

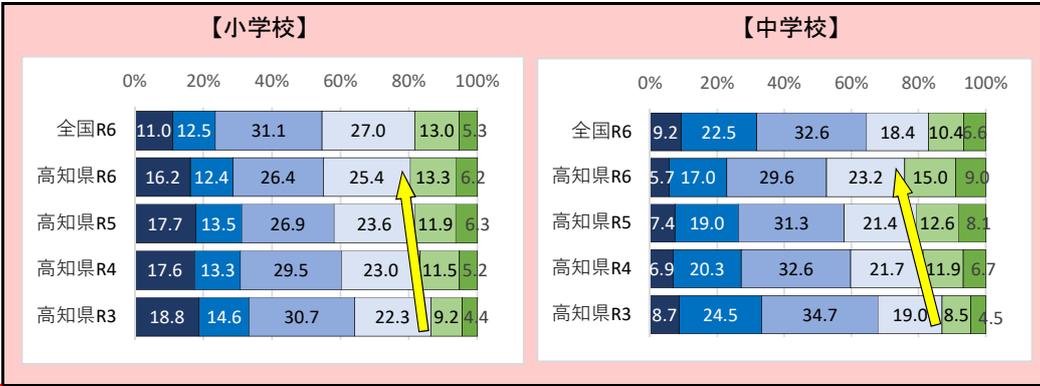
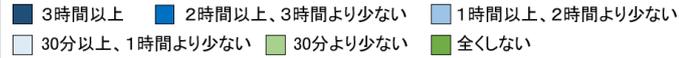
高知県 (経年)



学習習慣

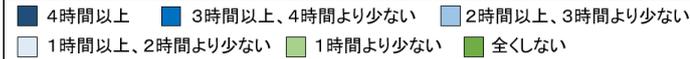
児童・生徒 質問調査	(21)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)
---------------	------	--

高知県(経年)



児童・生徒 質問調査	(22)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)
---------------	------	--

高知県(経年)



中学校において、平日・土・日とも、1日当たりの勉強時間について、「全くしない」と回答した生徒の割合は、令和5年度より増加している。

学習習慣

児童・生徒
質問調査 (5) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、**テレビゲーム**
(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを
使ったゲームも含む)をしますか

高知県 (経年)

■ 4時間以上 ■ 3時間以上、4時間より少ない ■ 2時間以上、3時間より少ない
■ 1時間以上、2時間より少ない ■ 1時間より少ない ■ 全くしない



児童・生徒
質問調査 (6) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やス
マートフォンで**SNSや動画視聴**などをしますか(携帯電話やスマートフォ
ンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)

高知県 (経年)

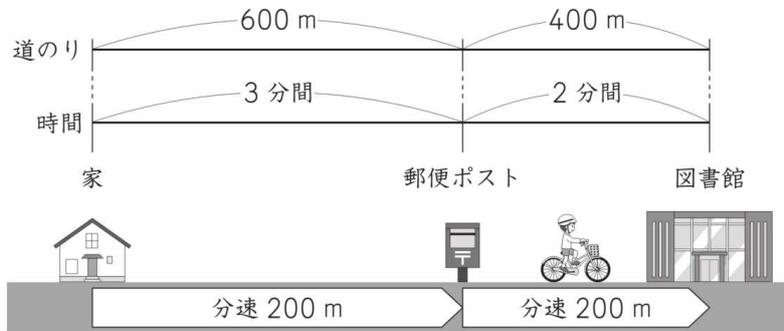
■ 4時間以上 ■ 3時間以上、4時間より少ない ■ 2時間以上、3時間より少ない
■ 1時間以上、2時間より少ない ■ 30分以上、1時間より少ない ■ 30分より少ない
■ 携帯やスマートフォンを持っていない



小学校・中学校ともに、1日に4時間以上、テレビゲームやSNS利用、動画視聴をしていると回答した児童生徒の割合が、令和4年度より増加している。

令和6年大問4(4)

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から郵便ポストまで、3分間かかりました。



家から図書館までの自転車の速さは、分速何mですか。

○正答は分速200mで正答率は52.5% (全国平均正答率は54.1%)

○誤答として分速400mと答えた児童の割合が26.9%

【参考】過去、道のりと速さを基に時間を求める問題の正答率は88.2%であった。

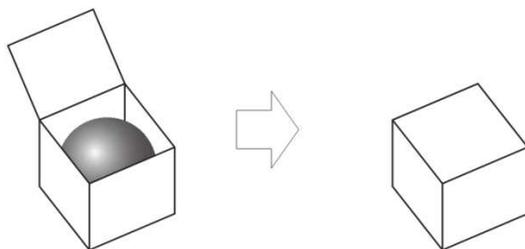
速さと道のりから時間を求める技能はあるが、速さについての意味理解は十分ではない。

令和6年大問3(3)

(3) 直径22cmの球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

○正答は $22 \times 22 \times 22$ で正答率は35.6% (全国平均正答率は36.5%)

○誤答として3.14を用いた式を解答した児童の割合が20.3%

【参考】過去、直方体の体積を求める問題の正答率は81.1%であった。

球の直径と立方体の1辺の長さを関連付けることに課題があり、知識を問題解決に生かせていない。

授業づくりについて解説した動画に用いた資料（抜粋）



育成する資質・能力を確認する



第5学年 C(2)異種の二つの量の割合

ア 次のような**知識及び技能**を身に付けること。
 (ア) 速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを**求めること**。

育成する知識及び技能

**意味の理解
表し方の理解**

速さを求める

小学校算数 R3 大問 I (5)

(5) たけるさんたちは、図書館から駅にもどるとき、バスに乗ることにしました。

分速 540 m で走るバスが、2700 m を進むのに何分間かかるかを求める式を書きましょう。

ただし、計算の答えを書く必要はありません。

出題の趣旨

速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができるかどうかをみる。

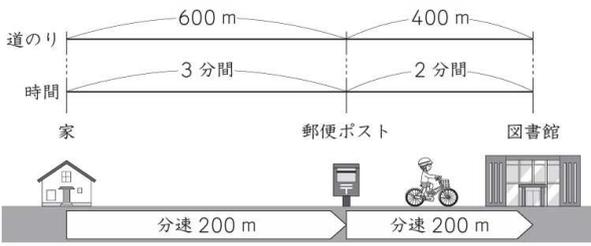


令和 6 年度全国学力・学習状況調査より



小学校算数 大問 4 (4)

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5 分間かかりました。



家から図書館までの自転車の速さは、分速何 m ですか。
 答えを書きましょう。

評価の観点
知識・技能

出題の趣旨
速さの意味について理解しているかどうかをみる。

分速200mというのは、1分間あたりに進む道のりがいつでも200mで変わらないってことだよ。

**意味の理解
表し方の理解**

速さを求める

高知県正答率 52.4%

意味理解が伴った知識及び技能の育成には至ってない



生きて働く知識及び技能に

知識及び技能



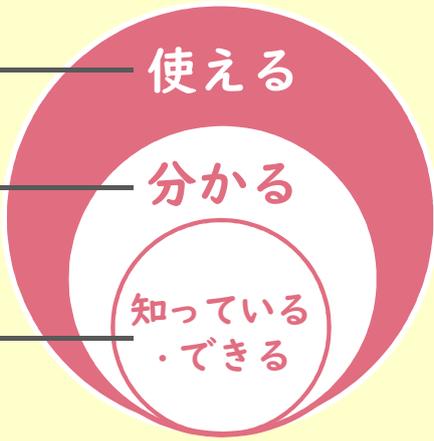
他の学習の場面
や生活の場面で
使える。

速さがどうい
うものであるか
を理解している。
説明できる。

公式に当てはめ
て速さや道のり、
時間を求めるこ
とができる。

生きて働く知識及び技能

重要!



参考 石井英真「今求められる学力と学びとはーコンピテンシー・ベースの
カリキュラムの光と影ー」 日本標準2015



これだけは!! 算数科編

～オンライン研修会より～

深い理解を伴った知識 を形成するために

- 「問い」が子供のものになっているか
(何のために問題解決をするのか)



考えてみたいな

- 全員が理解し、深めるための問い返しをしているか
(根拠を問う、誤答を大切に)



理由は...

- 問題解決の過程を振り返っているか
(何に着目してどのように考えたのか)



なるほど!
そういうことか



だったら、この考
え方を使えば...



- 知識・技能を活用して問題解決をする場面があるか

デジタルドリルの活用と効果 ~デジタルドリル活用実証研究事業~

概要

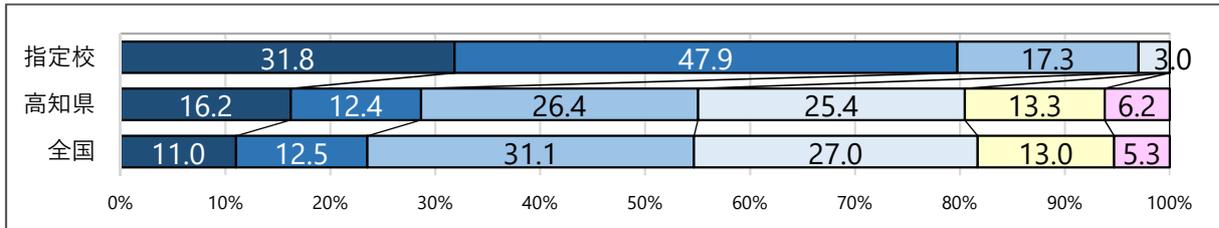
6市町 指定校11校+研究協力校6校 児童生徒 約1,500名
 指定校にAIデジタルドリルを提供 (R5から2年間)
 連絡協議会 (年2回) 学校訪問指導

(全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査結果)
 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれ
 くらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師
 の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

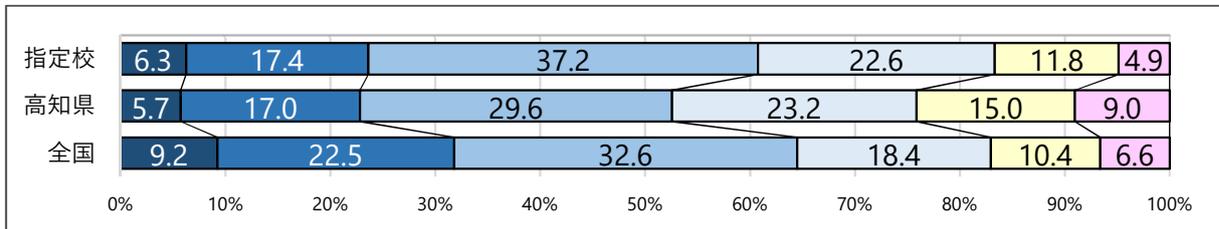
指定校は県全体と比べて学習
 時間が長い傾向にある。
 特に小学校においては30分未
 満の児童は0%となっている。

■3h~ ■2h-3h ■1h-2h □0.5h-1h □~0.5h □0

小学生



中学生



事例 学習データをもとにした 個別指導と学習計画の立案 (ダッシュボード機能の活用)

デジタルドリルで取り組んだ学習データ
 をダッシュボード機能で表示し、日常
 的にデータを閲覧できる環境を整備し
 たことで、指導者が個別指導に生かす
 とともに、児童生徒自身が強みと弱み
 を分析し、自ら学習計画を立案する
 ことができている。

自己の取組を振り返るシートの例

〇年〇組 名前 〇〇 〇〇

◎自分のスタディログを分析し、学習計画を立てましょう

1. 自分の苦手教科、苦手分野は何ですか？

英語の比較の文

2. 自分の苦手教科、苦手分野の中で、具体的にどのような課題が見つかりましたか？
 erとmoreの使い分けが不十分だった。そして、関連する英作文が上手
 にできなかった。

3. 苦手教科、苦手分野の克服のために、これからの学習へどのように取り組みますか？

デジタルドリルでは、分からない問題があればヒントが出てくるので、
 ヒントをもとに問題を解いていく。それでも解答が間違えていた場合
 は、解説が出てくるので、しっかり解説を理解しながら学んでいく。
 比較級(er, more)を使った英作文を毎日5文の作文をする。授業で
 は、分からない問題があれば、積極的に先生に聞きに行く。

ドリル学習履歴 (過去1年間)

学習日	教科/ステージ/レッスン/ユニット	内容	正答/問題	正答率 (%)	学習時間
2024/09/25	【英語】比較・不定詞・動名詞・分詞/比較の文/A mountain is more beautiful than a city. / English is more interesting than math.	ドリル	6/11	55	02:20
2024/09/25	【英語】比較・不定詞・動名詞・分詞/比較の文/I can run faster than Blackie. / Lucy is younger than Tom.	ドリル	6/6	100	05:45
2024/09/25	【英語】比較・不定詞・動名詞・分詞/比較の文/This actor is the most famous in America. That picture is the most expensive in the world.	ドリル	7/9	78	03:12
2024/09/25	【英語】比較・不定詞・動名詞・分詞/比較の文/You are as tall as my mother. He is as young as Tom.	ドリル	10/11	91	01:33
2024/09/25	【英語】比較・不定詞・動名詞・分詞/比較の文/He is the tallest in his school. Kaoru is the youngest of three girls.	ドリル	6/7	86	02:09
2024/09/25	【英語】比較・不定詞・動名詞・分詞/比較の文/You are not as tall as my father. / Mike does not sing as well as Tom. / I do not study math as hard as Mike.	ドリル	10/10	100	02:09

第3期教育等の振興に関する施策の大綱／第4期高知県教育振興基本計画 取組の強化の方向性(義務教育段階)

第3期教育大綱等については、以下のようなポイントについて取組を強化

地域への理解と愛着を育むキャリア教育の推進

小中学生が県内の産業・企業や文化を知り、
学ぶ機会の拡充

- ・小中学生が県内企業や産業現場を知る・体験する活動の充実
- ・地域の伝統行事や産業の継承に取り組み学ぶ活動の拡充

学力向上・定着の取組の強化

授業や授業外学習において自ら学び続ける
ことができる学習者の育成

- ・小学校対象の研修の実施と校内研修へのアプローチによる学力向上のPDCAサイクルの徹底
- ・対話型AIの実証的導入(中学校)など1人1台タブレット端末を効果的に活用した授業と授業外学習の充実
- ・教育DXの推進に向けた校内研修で活用できる動画や協議資料等をパッケージ化して提供

【参考資料】学力向上・定着の取組の強化（案）

現状

R6全国学力・学習状況調査結果より

◆県平均正答率と全国平均との差の状況

小学校：算数が全国平均を下回る。
中学校：依然、全国平均に届いていない。

	前年度比	今年度比
小国	+0.8pt [-1.3pt]	-0.1pt [-2.3pt]
中国	-2.1pt [-0.8pt]	-2.6pt [-0.2pt]

◆学校運営に関する状況

「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」の質問項目に対して、「よく行っている」と回答した学校の割合は、

	全国	全国
小学校：県	38.2%	40.4% [-2.2pt]
中学校：県	37.8%	40.5% [-2.7pt]

◆平日の授業外学習時間の状況

「30分より少ない」「全くない」と回答した児童生徒の割合が増加。中学校はその傾向が顕著。

	前年度比	今年度比
小6	R5: 18.2%	R6: 19.5% [+1.3pt]
中3	R5: 20.7%	R6: 24.0% [+3.3pt]

◆タブレット端末の家庭利用頻度の状況

「毎日持ち帰って、毎日利用させている」と回答した学校の割合は大幅に伸びている。

	前年度比	今年度比
小6	R5: 9.2%	R6: 39.3% [+30.1pt]

教育DX学校訪問より

◆各学校の取組状況

タブレット端末の日常的な活用は進んできている。しかし、紙がデジタルに置きかわっただけといった深い学びにつながる活用となっていないなど、**学校間、教員間に差が見られる。**

課題・要因

深い理解を伴った知識の形成に課題

●獲得した知識を活用して問題解決を図ることに課題。
(例：速さの意味理解が不十分)
→深い思考や理解を促す課題や問いの設定が不十分である。
→意味を深く理解させる必要性を、教員が認識できていない。

組織的な取組の推進に課題

●学力定着への学年を超えた取組が必要だが、該当学年や担当教科の課題となってしまう傾向。
→学年・教科の課題とせず、**学校全体の課題として組織的に授業改善及び基礎学力の定着を図る必要がある。**

教育DXの取組に差

●小学校段階から学び方を習得させたり、適切なタイミング・内容の支援をしたりするなどの手立てが必要。
→**組織的な取組を進めていくことで学級間、教科間の差を無くす必要がある。**

授業外学習時間の減少

●端末の持ち帰りは進んだものの、授業外学習時間が減少。学習以外のこと（SNS、動画視聴ゲーム等）に時間を費やしている。
平日のSNSや動画視聴時間が「4時間以上」
中3 R4: 16.0% → R6: 20.4%
平日のテレビゲームの時間が「4時間以上」
中3 R4: 19.0% → R6: 21.6%

→1人で学習を計画的に進めることが難しい。授業と授業の中で活かされるなど、**学習の成果を実感させる必要がある。**
→デジタルドリル表記校においては、**家庭学習習慣の定着が図られており、その成果を普及していく必要がある。**

課題解決に向けた方向性

学校全体で取り組む組織的なPDCAサイクルの確立



NEW 組織的な教育DXの推進

●教育DX推進に向けた校内研修パッケージの提供
校内研修で活用できる動画や協議資料等を、学校のニーズや課題に応じてパッケージ化できるようにして提供。

＜例1：学習者主体の授業とは？＞
動画：学習者主体の授業

協議：自校の取組を考える

動画：先進校の実践事例

協議：取組を振り返り課題と改善案を考える

一人一人の学習状況に応じた指導と授業外学習の充実

NEW 対話型AIを活用した生徒の学びのサポート

答えを直接教えることなく、考え方や解き方をサポート。AIとのやりとりを通じて「考える力」「知的探究心」等を磨く。
○日々の授業の疑問や不安の解消、練習量の増加



●AI型デジタルドリル等の活用(子どもの習熟度に応じた課題配信)と適切なフィードバックによる授業外学習の充実

生徒が、「問題・課題への取り組み方・考え方が分からない」という悩みを持ち、一人ですえを出せたり、「一人で答えを出せた」という成功体験を
持てないことなどが、学習意欲の低下や学習習慣の未定着等にもつながっている。

そのため、授業や家庭学習において、一人一人の生徒の質問に対して**直接的な答えを教えることなく、考え方や解き方をサポートする**
対話型AIの学習支援アプリを実証的に導入し、教師の指導と適切に組み合わせることで、個別最適・協働的な学びをさらに促進させる。

これまで

◆授業・家庭学習では...

- 1人で学習を進めることは困難だが、教員の支援があれば、取り組める生徒が一定数存在



何から取り組んだらいいか
分からない。

◆英語の学習機会は...

- 都心部と比較して英語に触れる機会が少ない
- 英文の正確性を高める練習が不十分



◆小規模校では...

- 少数の学級では、多様な考えに触れることが難しい

対話型AIを活用すると

◇授業・家庭学習では...

- AIは直接答えを教えず、考え方・解き方をサポート
- AIからの質問に答えていくことで、多面的・多角的に考えを深めることができる

(※イメージ)

【社会】



円安になると、中学生の生活にはどんな影響があるの？



円安について調べているんだね。材料が海外から来るものはどうなると思う？
みんなの身近なものには何があるか、考えてみよう！

※教師は、AIの性質やメリット・デメリット等を生徒に教示することはもとより、上記のAIの活用過程が生徒の主体性・協働性等を育むことにつながっているかの進捗等を常に確認することが必要

◇英語学習では...

- テニスの壁打ちのように、AIとの会話練習を通して自信をつけ、実際にALT等との会話で成功体験
- 生徒が知っている単語や表現を確認しながら、生徒の英語力に応じた英作文の学習をサポート



◇小規模校では...

- AIを学習パートナーとして、対話を通して、新たな考えを引き出したり、思考を深めたりする

高知県における不登校の状況について

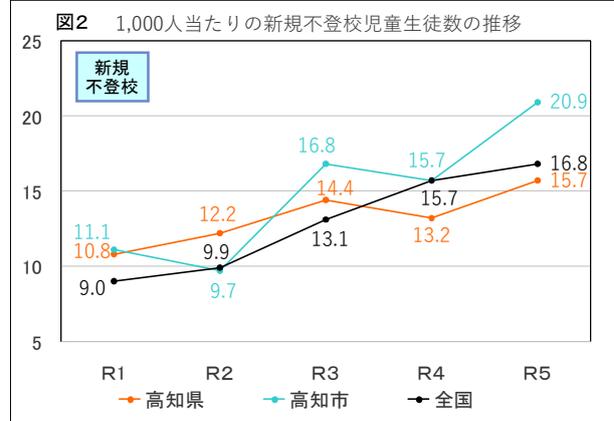
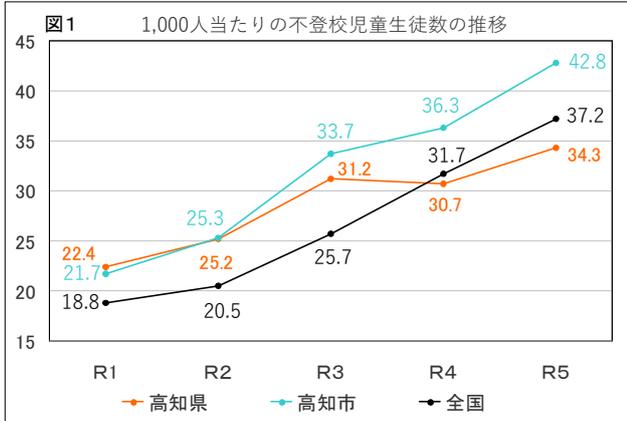
資料1

人権教育・児童生徒課

※下記の図の数値については、「高知県生徒指導上の諸課題・児童虐待に関する調査」及び「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文部科学省）によるものである。

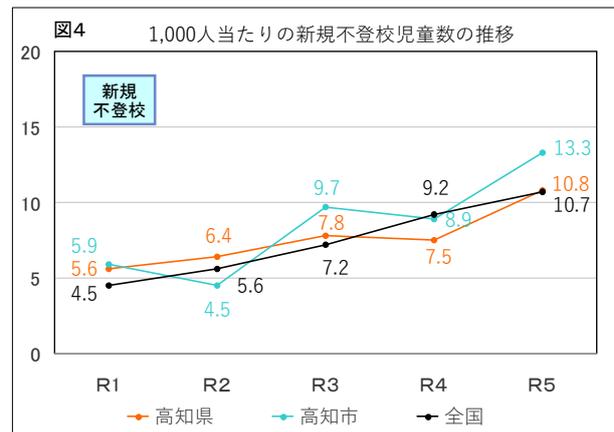
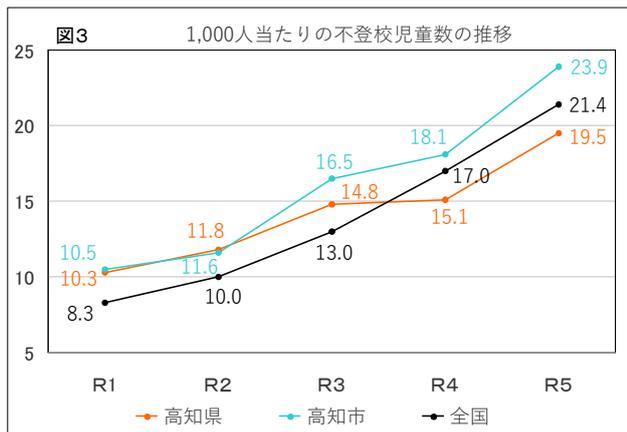
1. 小・中学校における不登校児童生徒数の推移（高知県：国公立学校・国：国公立学校）

単位：人



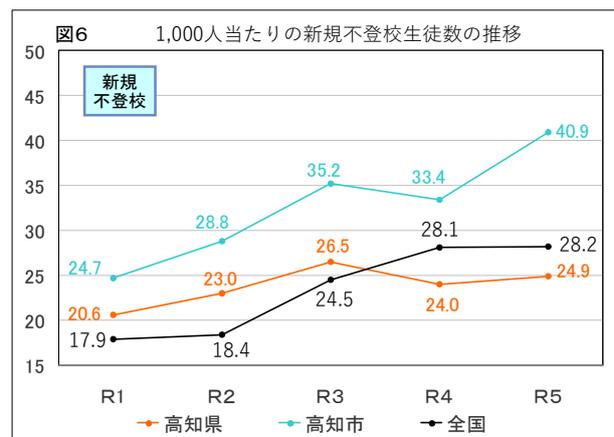
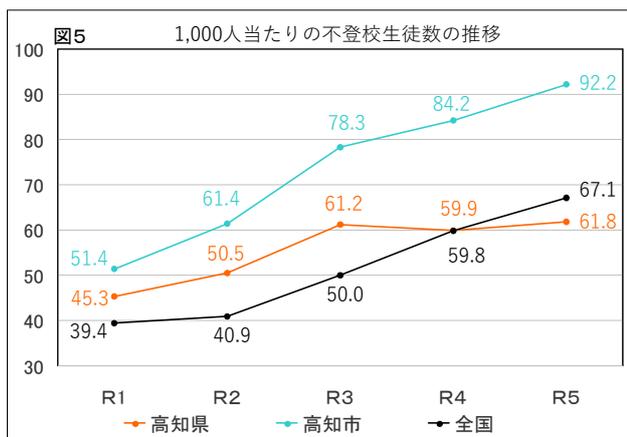
2. 小学校における不登校児童数の推移（高知県：国公立学校・国：国公立学校）

単位：人



3. 中学校における不登校生徒数の推移（高知県：国公立学校・国：国公立学校）

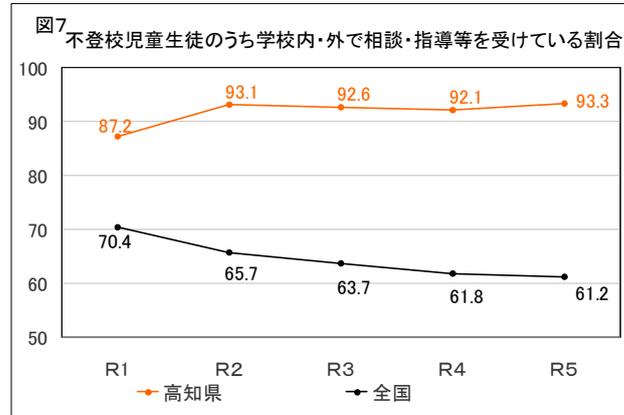
単位：人



4. 不登校児童生徒のうち学校内・外で相談・指導等を受けている割合（高知県：国公立学校・国：国私立学校）

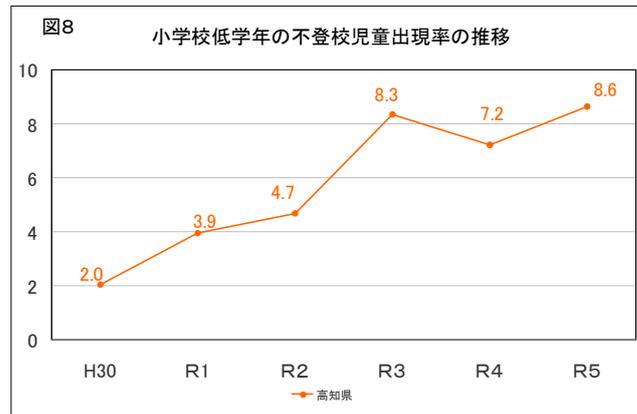
《小・中学校》

単位：%



5. 高知県における小学校低学年の不登校の現状（高知県：公立学校）

単位：人



R3→R5不登校事業指定校22校の状況(県調査)

資料3

		不登校出現率 (%)			新規不登校出現率 (%)			
		R3	R4	R5	R3	R4	R5	
小学校	高知市以外	A	2.20	3.26	3.30	1.01	1.54	1.22
		※B	0.87	0.64	0.82	0.00	0.21	0.41
		※C	0.39	0.40	1.04	0.13	0.40	0.65
		D	2.26	2.30	0.79	1.50	0.77	0.79
		※E	0.22	0.00	1.14	0.22	0.00	1.14
		F	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		※G	0.67	1.27	2.61	0.33	0.64	1.63
	高知市	H	2.84	2.06	3.72	2.13	0.56	2.35
		※I	2.06	1.57	2.43	0.59	0.63	1.74
		※J	2.13	3.10	2.11	2.13	1.62	1.06
		※K	1.69	1.32	1.20	1.31	0.75	0.80
		高知市小計	2.20	2.14	2.35	1.68	0.97	1.43
		指定校小計	1.48	1.57	1.87	0.96	0.74	1.10
	県全体小計	1.50	1.53	1.92	0.92	0.84	1.14	
	県全体と指定校の差	-0.02	0.04	-0.05	0.04	-0.10	-0.04	
中学校	高知市以外	※L	6.09	6.57	5.62	3.25	2.67	1.36
		※M	5.26	5.17	4.40	0.75	2.58	1.37
		※N	6.03	4.53	5.81	2.24	1.85	1.09
		※O	6.90	8.98	8.30	1.53	3.52	0.83
		P	6.37	4.18	3.37	2.39	0.84	1.40
		※Q	9.15	6.62	5.15	1.41	0.74	0.74
		※R	5.76	5.78	5.40	2.62	1.93	2.58
	高知市	※S	4.87	6.28	9.22	0.97	2.33	4.61
		※T	11.63	10.37	8.42	4.07	3.05	2.63
		※U	9.60	10.32	12.40	4.99	3.38	5.31
		V	7.84	8.22	8.41	3.36	2.83	2.61
		高知市中計	8.08	8.65	10.02	3.35	2.91	4.13
		指定校中計	6.86	6.75	7.06	2.59	2.38	2.41
	県全体中計	6.70	6.45	6.86	2.81	2.51	2.67	
	県全体と指定校の差	0.16	0.31	0.20	-0.22	-0.13	-0.26	

※印は、令和4年度まで不登校担当教員配置校サポート事業又は不登校支援推進プロジェクト事業の指定を受けていた学校

【校内サポートルームの取組】

- ・個々の生徒の実態を考慮し、それぞれに合った過ごし方を自己決定させ、実行できるよう配慮している。
- ・教科担当教諭が時間割を調整し、学習支援を実施することにより、生徒の出席日数が増え、進路実現を果たしている。
- ・オンライン配信されている授業や体育祭等の行事をオンラインで見ること、所属学級の様子を知り、学級復帰を果たす一助にもなっている。

【成果と課題】

○校内サポートルーム設置校(中学校)における新規不登校児童生徒出現率が県全体と比較して低いことから、校内サポートルームの取組は登校しづらい子ども達にとっての居場所となっており、新規不登校抑制に効果があると考えている。
 ●中学校の新規不登校生徒数を抑制している一方で、不登校児童生徒出現率が増加している学校があることから、継続して不登校状態にある子どもが一定数いることがうかがえる。このことから不登校となり、学校に登校しづらい子どもについて、学校外の学びの場に関わらず学校外の学びの場と、校内サポートルームとが連携するための手立てを考えていく必要がある。

幼小連携・接続の取組について

小学校入学時の子ども

- 地域の公園等で友だちや異年齢の子どもと集団で試行錯誤しながら遊ぶ機会が少なく、多様な経験や協同性が培われる場が減少し、初めての場所や人との出会いに緊張感や不安感を抱えやすい。
- 価値観の多様化、生活習慣の変化による生活経験の不足により、自分で考え、判断し、行動する力が十分に育っていない子どもが見られる。

自分で考え、判断し、行動する
主体的な子どもの育成へ

0歳から

子どもたちの成長を切れ目なく支えるため、調和のとれた教育を双方（園・小学校）で展開することが必要

18歳まで

乳幼児期（学びの芽生えの時期）

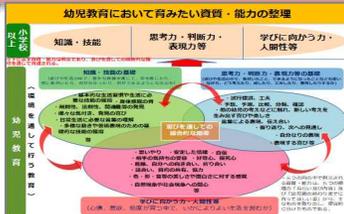
幼児教育＝「遊び」による総合的な指導

架け橋期（年長児～小1）

（年長児～小1）

児童期（自覚的な学びへと発展する時期）

小学校教育＝教科等の学習を中心とした指導



→幼小連携・接続の取組は、行事を中心とした交流から、さらに、子どもの姿をまんなかに対話を通して園と小学校の教育内容を理解し合う取組へと充実を図り、0歳から18歳までの育ちを見通す中で、**資質・能力をつなぐカリキュラムを作成、実践していく必要がある。**

→高知市の「架け橋期のカリキュラムづくり」**モデル地域の取組を県内全域に普及し、市町村を中心に、モデル地域に準じた取組を計画的・具体的に**進めていくことで、県内どの校区においても、架け橋期の教育の充実が図られ、高知県の**教育課題の未然防止**につながる。

→本県の教育課題を未然に防ぐ基盤を強化していく上では、就園児のほぼ半数を占める高知市との連携が極めて重要



1. 高知市・県の連携によるモデルづくり (R4～)

高知市内の1小学校区において、モデル的に「架け橋期のカリキュラム」づくりに取り組み、高知市と県の関係課が連携して支援する**新たな事業を開始**
文科省が全国19地域で展開する「幼保小の架け橋プログラム事業」を県が受託して実施。



重要

○園と小学校が、「子どもをまんなかに互いの教育内容を話し合い、ともにカリキュラムを作成・教育・保育を改善するシステム」を構築すること

○自治体を中心となり、「カリキュラムを作成する体制づくりを行うこと」

2. モデル地区における成果の普及 (R6)

★モデル地区に準じた取組（子どもをまんなかにして互いの教育内容を話し合い、一緒にカリキュラムを作る取組）の普及のためには「架け橋プログラムの進め方のポイント」をもとに、**市町村がリーダーシップを発揮し、計画的に進めていけるよう支援する必要があります。**

◎市町村を主体とした年間研修計画（園内研修への参加も含む）の作成・実施等体制づくりの促進

★市町村の担当者による、架け橋期の取組についての計画的な実施を支援

- 「市町村に幼小連携・接続の協議体が設置されている市町村」 [17市町村]
(R6年度 架け橋プログラム(幼小連携・接続)の実施状況調査)
- 「カリキュラム作成に向けて計画的に取り組んでいる市町村」 [11市町村]
・幼小連携・接続推進支援事業(R元～)から市町村主体で幼小連携・接続の取組を推進
田野町 越知町 黒潮町
・地域の実情に応じたカリキュラム作りに計画的に取り組んでいる市町村
安芸市 土佐市 香南市 四万十市 香美市 いの町 土佐町 橋原町

3. 県内全域への普及の加速化をめざす (R7～)

市町村

- 市町村の**管理職や施設管理者**に向けた、幼児教育や幼小連携・接続の重要性の理解に向けた啓発
→市町村教育長会
市町村校長会
所長・園長会 幼保推進協議会
教育センター管理職研修
- 市町村における 幼小連携・接続推進のための年間研修計画の作成・実施への支援
→行政説明会・行政研修会における行政職員・指導事務担当者への働きかけ

園・小学校

- 学校経営計画に基づいた幼小連携・接続の計画的な取組の促進
- 年間計画に基づく校区内の園・小学校における子どもの自発的な交流や教職員等の連絡会等の実施
→5歳児の園内研修や校内研修への協議までの参加促進

高知市との連携

- 高知市において「架け橋期のカリキュラム」づくりに新たに取り組む幼小連携・接続推進重点地区への支援
- モデル地区へのフォローアップ
※県幼保支援アドバイザー等による支援

令和6年度幼小の架け橋プログラムシンポジウム

★小学校及び義務教育学校（前期）は**悉皆研修**として実施

参加者 (619名)	アンケート回答 (434名)
小学校・中学校	210
保育所・幼稚園・認定こども園等	197
行政	61
大学・専門学校等	111
その他(県外・地域・保護者等)	40
合計	619

99.5%が肯定的回答であった。

感想
(園) 園同士の横のつながりを深め、子どもの姿や保育を語る関係性が大切だと感じた。(小学校) 4歳児や小学5年生の担任から話を聞き、子どもたちの意見や考え、経験をきいていくことが重要であると実践を聞きより分かった。

(学生) 幼保小の連携が子どもの学びや成長に影響すると感じた。小学校の生活を知ること、園の生活を伝えることが大切だと学んだ。

3年目 持続的・発展的な取組の定着を支援⇒自走に向けて

- 持続可能な体制（園・小学校）づくり
- 改善・発展サイクルの定着

注：橋づくりから改善・発展サイクルの定着に至るまでのプロセスの目的、実際には、地域の実情に応じ、各フェーズの進捗は異なる。



これまでの成果を広く実践につなげる取組へ

課題

変化が激しい予測困難な社会
自らの人生を切り開いていく子どもたちを
育てるためには、**0歳から18歳を見通し
た人づくりを考えていく必要がある。**

『幼児教育、学校教育における教育活動の現状と課題等』

参考：今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の方
に関する有識者検討会 最終報告（令和6年10月）

●近年の子供を取り巻く状況による 身体・感覚を通じた直接的・具 体的な体験の十分な確保の困難

※子どもの外遊びの機会の減少、ゲーム時間・動画の
視聴時間の増加、同年齢・異年齢の子ども同士の交
流機会の減少など、家庭や地域において**幼児の発達
に必要な直接的・具体的体験を十分に確保するこ
とが困難**になってきている。

⇒幼児教育施設において、安全・安
心な場所で、**幼児が自由にのび
のびと遊びながら、様々な人やもの、
自然や文化等と直接的・具体的に
触れて関わり、豊かな体験をする
機会を積極的に設けていくことが
一層重要。**

●自発的（主体的）な活動としての 遊びが幼児特有の学習であること に対して社会の理解が不十分

※知識や技能を教えるのではなく、**遊びを通して
楽しいと感じる多様な体験**をしながら、小学校以
降の**集団（協働）生活や学習の基盤となる資質・
能力を育てていく**ようにすることが重要。しかし、
保護者をはじめ社会においては、幼児教育施設は
ただ遊ばせているだけとの誤解がある。

⇒小学校以降で進められている教育
の方向性（**個別最適な学びと協働
的な学びを一体的に充実し、主体
的・対話的で深い学びを実現す
る**）ことは、**幼児教育の考え方と
つながっている**ことを互いに理解
し実践につなげていく必要がある。

○これからは直接的、**具
体的な体験を重視する**とともに、**子
どもの主体性を育む**ために、**学
びの連続性を意識**した

架け橋プログラムモデル地区における取組

①モデル校区での保育者・教員の話し合い（教育内容の検討・研修）



子どもの姿をもとに互いの教育内容を話し合う
取組を積み重ねることで、相互理解が深まった。

「教える」教育から、「自分で考え、判断し、行
動する主体的な子どもの育成」に向けた教育へ
教育内容を保育者と教師がともに考えることができ
ている。

②子どもの自発的な交流活動を実施



他園の子ども同士においてもつながりが深まり、
学校への入学の安心感や期待がもてた。

園児と児童が自己決定、自己選択できる自発的
な活動内容を園と小学校が協働して工夫し、子
どもたちの自信につなげた。
交流会の様子等を保護者に向けて発信し、保護者
の安心につなげた。

③カリキュラムに基づいた保育実践と研修の実施



架け橋期のカリキュラムをもとに、**集団の中で幼児
自らがつくる主体的な遊びを大切に**する保育の実践
を行った。

5歳児等による園内研修の実施と小学校・園の
相互参加により、子ども理解を深めた。

幼保支援アドバイザーによる5歳児以外の園内
研修支援により、0歳からの発達連続性と保
育内容についての学びを行った。

④幼児期の学びや経験を生かし、「やってみよう」が実現できる 主体的な学びに向けた授業の改善



架け橋期のカリキュラムをもとに、**幼児期の学びや
主体的な学びを大切に**し、児童の「やってみよう」
がかなう教育実践を積み重ねた。

保幼小連携アドバイザーの支援により、子ども
主体の授業を実践、振り返りを行った。

⑤園・校双方がめざす子供像をもとに組織として子どもの育ちを 振り返り、教育・保育の充実を図る



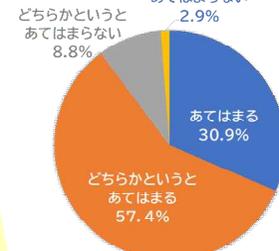
組織として、**集団の中で幼児や児童自らがつくる
主体的な学びを大切に**する教育の実践に取り組んだ。

架け橋の取組を学校全体に広げ、校務分掌の工夫を
しつつ、授業力向上に向けた人材育成を行った。

成果

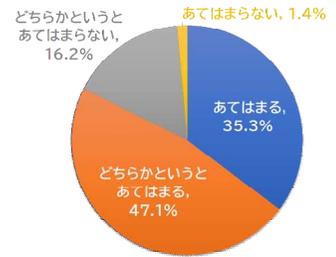
モデル校区保育者・教員アンケート（回答者68名）※県幼保支援課調査

Q.架け橋プログラムに取り組むことで子
どもの主体性は高まっていると感じま
すか。



88.3%が感じると回答

Q.架け橋プログラムに取り組むことで、自身
の保育や授業に対する考え方や方法に変化が
ありましたか。



82.4%が変化があったと回答

園全体で取り組んだ成果

【保育環境の変化】
他園の保育を見ることができ、多様な保育、多様な環境を感じ、環境設定には特に
意識するようになった。

【他園・小学校との交流】
年長の担任だけでなく、他の職員が小学校の公開授業や園内研修中での研究協
議に参加することでの学びも大きく、自園に持ち帰り、架け橋についての話をす
ることが多くなった。

【架け橋期のカリキュラム】
カリキュラムができたことは大きい。カリキュラムを見ながら保育の振り返り
をしたり、担任と一緒に悩んだときにカリキュラムを見て納得したり、自園の子
どもの姿を照らし合わせたりすることで、成長を感じ、次の保育につなげてい
ることができた。

※他園との交流や保育を見合うことで保育の質の向上や人材育成にもつながって
いる。

小学校全体で組織として取り組んだ成果

※学習意欲の向上・児童の意識の変化
11月 学校評価アンケート(4~6年対象) 肯定的な回答の割合

①あなたは、学校が楽しいですか。 R5 77.5% → R6 83.9%

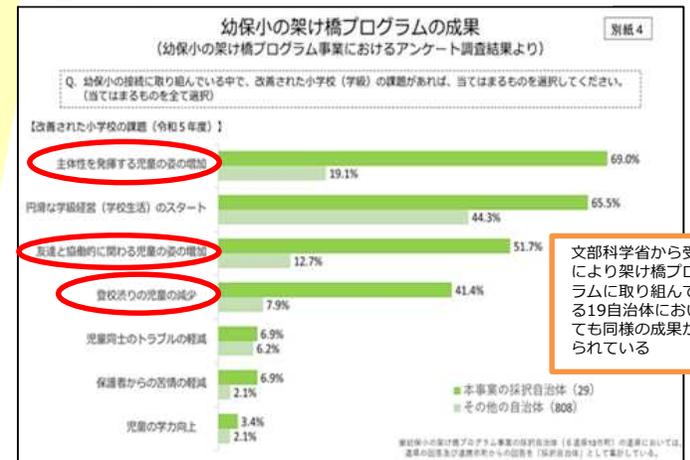
②あなたは、授業がよく分かりますか。 R5 80.9% → R6 90.8%

③あなたは、友だちと仲良く生活していますか。 R5 87.5% → R6 95.4%

【不登校（傾向）の減少】
架け橋の取組が始まった4年度から、1年生の不登校や登校泣きは見られない。
また、昨年度不登校だった上級生の児童2名が登校できるようになっている。

【学校の組織力の向上】
架け橋の研修に教職員全員で取り組むことで、幼児教育への理解が進み、1年生
の担任を毎年新しい先生がもつことに。

※全国モデル地区（19自治体）における成果



文部科学省から受託
により架け橋プロ
グラムに取り組ん
でいる19自治体
においても同様の
成果が見られて
いる